

空襲（家庭防空）



* 佐川家文書（佐合島）3609（25の11）「家庭防空 第一輯」

解説

写真は、1938（昭和13）年1月20日発行の「家庭防空」です。福岡県小倉に置かれていた西部防衛司令部が一般家庭向けに編集したものです。33ページのモノクロ印刷の冊子で、空襲への対策が写真やイラスト入りで解説してあります。実際の空襲では、投下された爆弾の種類により異なる対処が必要でした。そのため、爆弾についての基礎知識をはじめ、「爆弾」「焼夷弾」「瓦斯弾」に分けて、具体的にどのような対処をしなければならないかが解説してあります。写真下は焼夷弾の場合です。「最初の30秒が肝心」「注水に際しては沈着、冷静、且つ勇敢に行動し、あくまで執拗に奮闘することが肝要である」「延焼防止は案外容易である」「最初の一杯は後の百杯の水に勝る」と書かれています。中には、よくない防空の例も交えるなどして、わかりやすく防空の意義を伝えています。

もっとも、これが出された1938（昭和13）年当時は、太平洋戦争末期に見られたような日本全土への空襲は行われていませんでした。資料の中でも「もし敵機が我が国土に襲来した時は」という仮定の表現が用いられ、空襲のシミュレーションも、交戦中であった中国大陸からの航続距離が意識されていません。使用されているイラストにも少し余裕が感じられます。

* 佐川家文書（佐合島）の中には、山口県が作成し家庭に配布した灯火管制のビラや、それと対応して佐賀村役場・平生警察署・佐賀警防団が作成し各家庭に配布した灯火管制のビラがあります。（佐川家文書（佐合島）3609（25の9）・（25の10））